

小粒でもスパイシー、下田前衛の沢
下田 光来出川外白根沢

木下

【日時】2009年6月27～28日

【メンバー】L木下 棚橋 佐貫 栗原

昨年、光来出川本流を遡行して前衛の支流ながら気になる沢が白根沢でした。標高900mそこそこの白根山を巡る小さな沢ですが内容はとても充実してお勧めの一本です。天気にも恵まれハルゼミの合唱を聞きつつ、初夏の下田を楽しんできました。

6/27 晴

笠掘ダムに車をデポして出発、昨年辿っているので湖岸道のペース配分は周知・・・暑さ



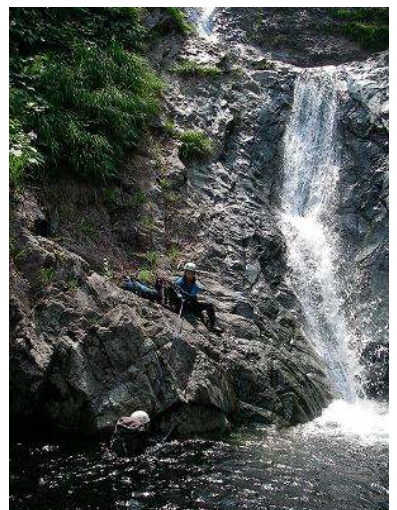
バテにならないようにゆっくりのペースで進む。大川への分岐を過ぎると踏跡がわりにくくなり、若干の藪漕ぎ。3時間ほどで本流出る。川を吹き渡る風は心地よく思わずのんびりとする。

本流をしばらく行くと大きな釜の4m滝、右から巻き気味に登って通過する。穏やかな流れを行くと右岸から小さな沢が入り、白根沢だ。さえない出合であったが、すぐに両岸にスラブが広がりそれらしくなってきた。

小さなブロックを見て進むと今回の核心12mCS滝が現われる。巨岩が積み重なった右手の洞穴に入り、裏面からマントリング気味

に這い上がって下段の大岩の上に出る。上段は被った凹角を残置ボルトにアブミをセットして登る。慣れないアブミで結構スリルがあり。栗原さん、ナイスリード。荷揚げも結構厄介で4人で1時間ほどかかったかと思います。

大岩を縫って進み、沢が左折すると美しいナメ滝を始めとした連瀑帯となる。初めの4mナメ滝は快適に登るが続く6mは難しく見え、右岸から小さく巻く。容易に沢に戻るとまた5m, 8mと滝が続く。果敢に佐貫さんが釜を泳いで右岸に取り付く、快適！

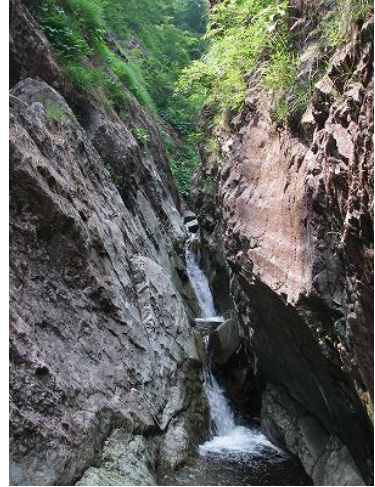


沢が広がり、右俣・内白根沢との二俣、右俣は7mの美しいスダレ状の滝を懸ける。左俣・外白根沢はすぐに深いゴルジュとなり、直登できない6mCS滝となる。兩岸の上部はスラブが展開していて巻き上げられると大高巻きになりそうなので慎重にルートを選択する。右岸よりブッシュをつないで、懸垂もなく沢に戻る。またすぐに兩岸が高くなり、巾の狭いゴルジュ、最狭部では1m程だ、突っ張りやフリクションを利かせて釜や小滝を越していく、楽しいところだ。沢が右折するところに8m滝、左壁が登れそうだが逆層にも見え、少し戻って右岸の草付から巻くがここは少々悪い。

兩岸が穏やかになり、広葉樹の森が見えてくると上の二俣、右沢に入ったところに絶好の幕場、10m×20m程の平らな砂地、流木豊富。以前行った笹川さんの報告どおり素晴らしい幕場です。勿論ここにて、本日の行動終了。盛大な焚火とともに快適な一夜を過ごした。

6/28 晴

右沢は穏やかな溪相、小滝が連続するが難しいところはなく高度を上げていく。上部は分流が多く地図をまめに読んで進んでいく。稜線まじかになると平坦な地形となり薄い藪の中でザックを降ろして休んでいるとハルゼミの声。やさしい木漏れ日の中でよい気分だ。稜線からは藪を漕いで白根山へ、頂上からは栗ヶ岳をはじめとして青里岳、矢筈岳など下田川内の主脈が並んでいた。



下降は旧道を辿り、宿ノ沢を下降して笠堀ダム湖岸道に戻る予定だ。旧道は踏跡だけが残り、両側から藪に覆われている。この尾根は漆の木が多く触らぬように気を使いながら進む。ブッシュの下の道型ははっきりしているので迷うことはなかった。途中、俎岩が見え、「今度はスラブ登りだね」と。「白根越」の看板から道から分かれ、藪漕ぎで尾根を進む。木に登って、現在位置を確認してから宿ノ沢に入る。この沢は何もない沢で下降向き、落石に注して順調に下れば約1時間半で湖岸道に到着した。

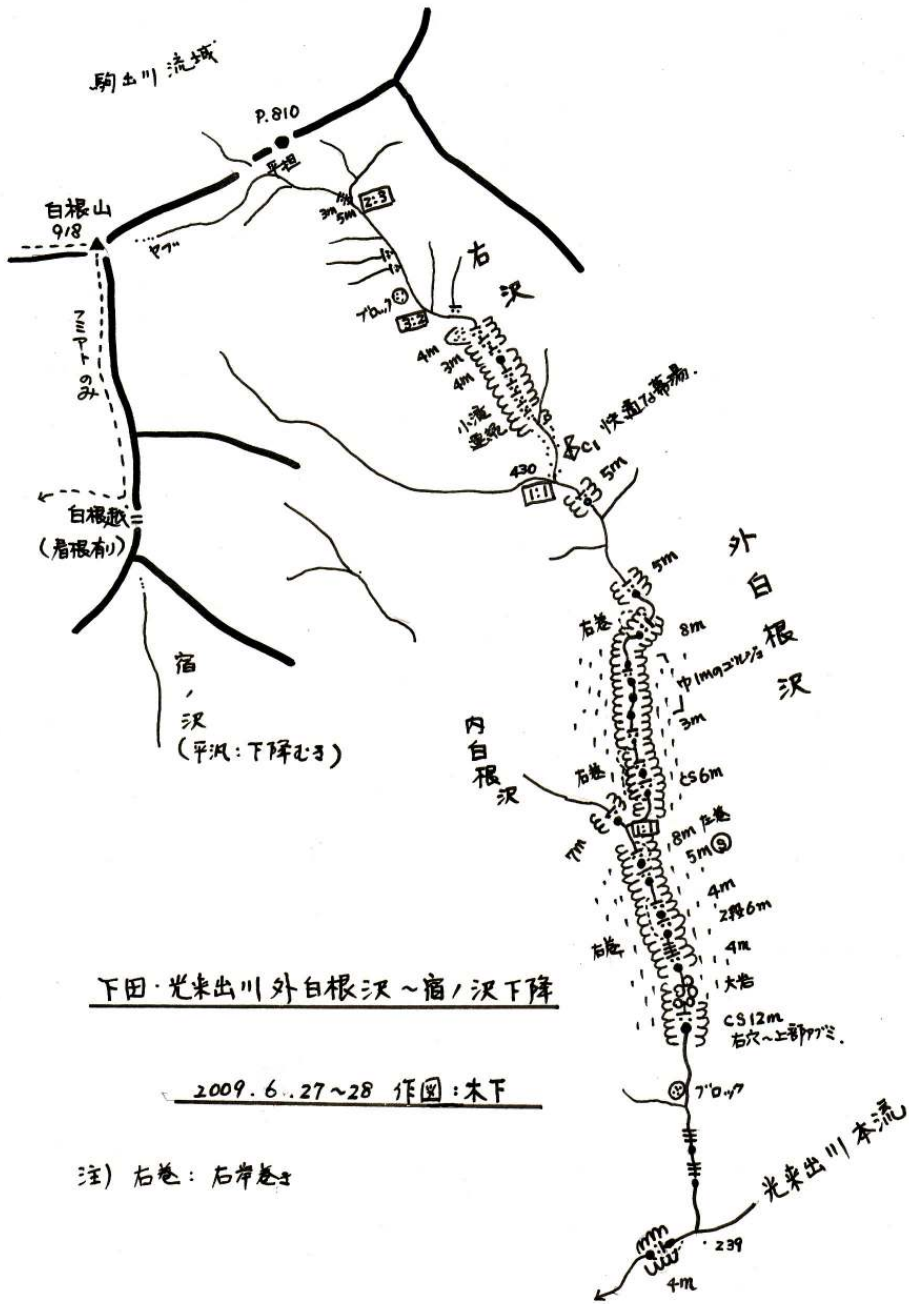


再び、暑い暑い湖岸道を辿って、笠堀ダムへ。ダムには結構観光客が来ていてちょっとびっくり、爽やかな初夏の沢はこれにて無事終了。八木鼻で温泉に入って帰京の途についた。

【行程】 6/27 笠堀ダム (7:55) -大川下降点 (9:53) -光来出本流 (10:55-11:20) -白根沢 (11:40) -二俣 (13:50) -上の二俣 (15:50) C1

6/28 C1 (5:45) -白根山 (8:50-9:10) -白根越 (9:50) -宿ノ沢 (10:10) -湖岸道 (11:40) -笠堀ダム (12:50)

【地図】 光明山 栗ヶ岳



下田・光榮出川外白根沢～宿ノ沢下降

2009.6.27~28 作図: 木下

注) 右巻: 右岸巻